

ぼくらの蓄音機体験記



# スクラッチ ノイズの

# 誘惑

サラリーマンで賑わう銀座の一角。雨あがりの夜空に、カッ飛んできた人こそ、日本ロック界の“KING” 忌野清志郎だ。車で移動する事務所のスタッフをぶっちぎり、曲がり角で、自慢のロードレーサーを止め、蓄音機とSPレコードを専門に扱うシェルマン本店に一番乗りでご来店。世界中の人に自慢したい蓄音機が並ぶ店内と、稀代のロックシンガーという不思議な組み合わせ。ド派手なメイクを済ませ、ゴージャスなステージ衣装に着替えると、蓄音機に録音するという“KING”初体験のLIVEがはじまった。

「30秒かぁ……」あまりない録音時間に何を歌うか悩んだ後、「幸せになりたいけど、頑張りたくない」と、CMソング「ラクに行こうぜ」を、ふるくの蓄音機の前でウクレレを弾きながら熱唱。

# 録音の誘惑

# 忌野清志郎

## 「いやあ、なんか昔の作曲家になった感じっすね」

店内に忌野清志郎が奏でるウクレレの音だけが響いている。スタッフ全員が、あの清志郎の生歌を間近で聴ける喜びと、ちゃんと録音できるのかという不安で静まり返った。「顔突っ込んだんじゃっていいんすか?」「録音ははじめたら、すぐに歌った方がいいんすか?」

デビュー35周年を迎える“KING” 忌野清志郎でさえ、ホーンに向かって演奏し、その音の振動を針に伝えて直接記録用媒体(ロウ管)に溝を刻む「アコースティック録音」なるものは初体験である。エジソン式蓄音機のロウ管が回りはじめ、スタッフのOKの合図が出ると、ウクレレを弾きながら名曲「夜の散歩をしないかね」を熱唱した。至福の時間が流れている。あの歌声をホーンが飲み込み、ロウ管のロウが削られて宙に舞う。

ワンコーラスで録音は終了。そこに立ち会ったスタッフ全員から堰を切ったように感動の拍手が鳴り響いた。録音と同時に円筒型のレコードが完成したのだ。誰もが待ちきれず再生ははじまる。スクラッチノイズと共に、すばらしい歌声が聴こえてきた。本人も、蓄音機から流れる自分の歌声を感慨深げに黙って聴いている。

「いやあ、なんか昔の人になったみたい。昔の作曲家になった感じ。音質もいいっすね、素晴らしい」笑顔からも、はじめての体験への感動が伝わってくる。

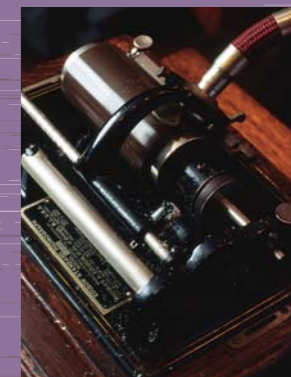
その後、最上級の蓄音機で当時のSPレコードを聞いてもらうことになった。誰のレコードを聞きたいかという質問に、悩んだ挙句、ナットキングコールをリクエストした。「すげえな、コレ。低音がすごい。深みがありますね。いやあ、モノラルの世界の奥深さっていうか……やっぱり、これくらい低音が出ないとダメだね。僕はアナログの時代、必ずカッティング工場で立ち会ったり、いいカッティングをするためにイギリスに行ったりとか、ラッカー盤を超える材料を探す旅をして銅が一番すばらしいことを突き止めたりし



おもちゃのようなふるくの蓄音機でも、ちゃんと音が録音されていることに「ふう〜ん、すごいっすね」と感心。

蓄音機のホーンに「顔突っ込んだんじゃっていいんすか?」と言いながら、100年前のエジソン式蓄音機に、名曲「夜の散歩をしないかね」をウクレレ演奏で熱唱。当時の録音を体験した。

録音が終わった直後、溝が掘られたロウ管。目に見えない音が、ロウのカスを舞い上げながら、溝に刻まれていく様子は、神聖で美しい。



たんだ。ある雑誌で、最後のソノシートを作るという企画をしたこととか、その当時のことを色々思い出したよ」

アナログの音が持つ、どこか懐かしい響きは、心の奥にしまいこんだ音への思いを呼び起こさせたようだ。もともと、レコードの音質にただならぬこだわりを持っている清志郎氏。最後に、デジタルとアナログの違いをどう感じているのか聞いてみた。

「デジタルは音量がなくても、下手でも形になるけど、アナログだと実力がないと形にならないよね。演奏する人を選ぶような感じがするんだ。本物だけが出来る世界。それがアナログとデジタルの違いだと思う。デジタルとアナログ、どちらも面白いけど、こういう蓄音機の音のハイとローの広がりとか、中音の感じとか、深い感じとか、いい音を聞きちゃうと、大事なものを置き忘れてしまっただけっていう、そんな気がした……」

### 忌野清志郎

1951年生まれ。15歳でバンドをはじめ、1968年「RCサクセション」を結成。高校3年生時にデビュー。「雨あがりの夜空に」「スローバラード」「トランジスタラジオ」などヒット曲多数。現在、音楽活動以外にも、映画出演、絵本の著作、翻訳、自転車で奥の細道を辿る「ツール・ド・奥の細道」(NHK)など、多分野に渡り幅広く活動中。2004年11月26日「JUMP」発売! 忌野清志郎デビュー35周年記念日の100日前にリリースされるカウントダウン・シングル。最近2年間に手掛けたCMソング4曲が集められている。詳しくは、公式サイト「地味変」まで。http://www.kiyoshiro.co.jp/

